

Björk

—ビヨルク(白樺)—



SCFのある当別町スウェーデンヒルズのレクサンド記念公園から、レクサンドより送られたダーラヘスト「レック」とともに石狩湾を望む。昨年に続き夏至祭は中止となるなど、新型コロナウイルスの影響は各地で続いておりますが、その一方でワクチンの接種が進むなど、明るい話題も聞こえ始めています。

インタビュー「SWEA (スウェーデン女性教育協会)」	SWEA JAPAN 代表 ファニー・シャーデル	2
令和3年度定時評議員会・第1回理事会報告		6
広報誌「ビヨルク」これまでのあゆみ		8
アーティスト・イン・レジデンス2017招聘アーティスト ウルフ・ヤンソン氏よりメッセージ		11
連載寄稿「スウェーデンの現在」⑯	ソフィア・マルム	14

一般財団法人スウェーデン交流センター（理事長 内野 貢）

〒061-3777 北海道石狩郡当別町スウェーデンヒルズ2329番地25

TEL 0133-26-2360 FAX 0133-26-2992

<http://www.swedishcenter.or.jp/> e-mail : info@swedishcenter.or.jp

SWEA JAPAN

Swedish Women's Educational Association

President Fanny Tjäder



スウェーデン女性教育協会

代表 ファニー・シャーデル



SWEAについて

SCF 職員（以下「ー」）：今日はよろしくお願ひいたします。まずはスウェーデン女性教育協会（以下「SWEA」）という組織について、その成り立ちなどを教えていただけますか？

ファニーさん（以下「F」）：こちらこそ、よろしくお願ひいたします。SWEA という組織は、スウェーデン国外におけるスウェーデンの言語、文化や伝統を啓発することを目的として、1979 年アメリカのロサンゼルスでアグネータ・ニルソンというスウェーデン人女性が創設者となり設立されました。

アメリカという土地で設立されたことには様々な背景がありますが、当時多くのスウェーデン企業がアメリカに進出しておらず、それにより多くのスウェーデン人が家族を連れてアメリカに移住していたのです。1950 年代にはまだ女性がその企業の中で働く機会はそう多くなく、旦那さんが働いて女性は家にいるということが多く見られました。そんな中にあって、スウェーデン人の集まる団体として何かを始められないかと活動を始めたことに端を発しています。当時はまだ SWEA としての体を成していたわけではなく、その活動はメンバーの興味・関心に基づくもの…アメリカの社会にあっても彼らの子どもたちがスウェーデンの文化に触れられるように…と企画されたものが多かったようです。SWEA はアメリカでは NPO（非営利団体）として登録されていますが、今や日本やオーストラリアなど、世界各地に支部を構えていま

昨今日本でも女性の労働問題や政治参加などの問題が取り上げられる機会が多くなりました。スウェーデンは古くから女性の権利向上についての取り組みがおこなわれ、また女性の教育についても、19 世紀半ばには男女の義務教育が施行されているなど、長い歴史を持っています。

今回はスウェーデン国外に住む女性たちによって設立された “SWEA (Swedish Women's Educational Association=スウェーデン女性教育協会)” その日本支部の代表を務めているファニー・シャーデルさんに、SWEA の活動や今後の予定などについてオンラインでインタビューしました。

す。

このように長い歴史があるのですが、日本での活動を始めたのは 2 ~ 30 年ほど前のこと、1980 年 ~ 90 年代になります。当時のメンバーは神戸にいるグループや東京に拠点を置くグループなどがありました。やはりメンバーの多くは東京に住んでいました。それゆえ SWEA JAPAN …時として SWEA TOKYO と呼ばれるようになりました（笑）

ー：（笑）

F：このようにスウェーデン人が多く住む国々で団体を設立してきました。そんな中にあって SWEA JAPAN は他と比べて長い歴史を持っているように思います。

ー：SWEA がそれほど長い歴史を持ち、各地で活動をされているということは興味深いですね。スウェーデンは女性の教育や社会進出についても、とても長い歴史があると聞きました。そういうことも踏まえて、スウェーデンでは SWEA のように活動をされている団体があることにただただ驚いています。

F：そうですね、スウェーデンでは女性の教育に関する取り組みは非常に早くから始まっていて、1842 年にすべての子どもに対しての義務教育が始まり、読み書きを習う機会が平等に与えられるようになっていました。1861 年には女性専門の公的高等教育機関も設立されています。

ー：日本はその頃はまだ江戸時代で、そんなことは考えもしなかった時代ですから…非常に進んでいたんですね。こういった歴史や活動についても日本人には知りたいと思います。そういう歴史をもっとよく知る

ためにも、私ももっとスウェーデン語について勉強したいと思いますね。SCFのある北海道にもスウェーデンの方は住んでいらっしゃるので、その方々とももっと関わっていきたいと思っています。

F: そうなのですね。今北海道にいらっしゃる方々というのは短期滞在の方が多いのですか？それとも長期滞在の方も多いのですか？

-: そうですね…何人かは大学の学生さんということで、数年間の方もいれば、研究者として働いていらっしゃる方、日本人とご結婚されている方もいると聞き及んでいます。今はコロナのことあって旅行者の方は殆どいらっしゃらない状態ではありますね。

F: 北海道を拠点とするスウェーデンの企業はありますか？

-: そうですね、北海道を拠点としているという企業はないかと思うのですが、スウェーデンと縁深い企業はいくつもありますね。SCFとつながりの深いスウェーデンハウスや、ガデリウスも北海道に支店を構えています。そのほか、スウェーデンの企業として知られている企業の店舗が札幌をはじめとして進出してきています。今はまだお店はないのですが、今首都圏をはじめ各地に進出しているIKEAには、ぜひ北海道に来てもらいたいですね。

F: そうですね、きっと北海道の方にとっても、スウェーデンを身近に感じてもらえることにつながりますね！

-: 今はコロナのことあってできないのですが、SCFでは毎年ザリガニパーティやスールストロミングなど、食文化を紹介するイベントを行っています。スールストロミングについては缶詰のストックもあるんですよ。

F: スールストロミングは輸入するには大変なものですからね。

-: 昔と比べて手に入れるのは簡単になりましたが、輸入コストも含まれているのでそれでも少し高いですね。ザリガニパーティのザリガニは北海道のものを使っているのですけれどね。

F: スウェーデンでも、今はザリガニパーティに食されるザリガニは輸入もののザリガニが多くて、スウェーデン産のザリガニは殆どないかもしれませんね。中国などから冷凍で輸入されるものは安価で大量に輸入することができますからね。



スウェーデン大使館で開催したユールバザールにて。

そうそう、前の週の金曜日にはスウェーデンでは大事なイベントの一つ、ヴァルボリ Valborg がおこなわれる日

でした。ヴァルボリはスウェーデンでも大事なお祭りの一つで、ユールや夏至祭と同じくらいに大切にされていますね。こういったイベントを定期的に行っているわけではないのですが（他の国の SWEA では開催しているところもあります）、スウェーデン国外に住む女性たちのための活動をメインに、その家族のための活動も企画しながら活動をしています。

SWEA の活動

-: 先ほども少しお話されていましたが、SWEA の活動について、日本でのこれまでの活動などを教えていただけますか？

F: SWEA の日本での活動は多岐に渡るのですが、定期的に行っている活動としては、料理教室や生け花、読書会などですね。一つの本について議論したり、時には博物館に行ったりすることもあります。毎週 2 ~ 3 回程度…難しい時もありますが、それでも毎週。週に少なくとも 1 回はおこなっています。

それとは別に開催しているものもありまして、年に一度スウェーデン大使館で行っているクリスマスバザー「ユールバザール」を行っています。ここにはスウェーデンの企業なども関わってくださっているのですが、私も SWEA の代表としてこのイベントに参加します。

私が SWEA の代表になったのは、この 2 月のことです。前回どのようなものだったか…昨年はご存知の通りコロナのことがあってできなかったですし、今年もどうなるかわからないのですが、SWEA はユールバザールでものを売ったりイベントを企画したりしています。スウェーデンのクリスマスにちなんだお菓子、ルッセブルーラル (Lussebullar=サフランパン) やパッペルカーコル (Papperkakor=ジンジャークッキー) を焼いて売ったりもしていますね。

このバザールには日本に住んでいるスウェーデンの人も来ますが、北欧のクリスマスに関心のある日本人も多くいらっしゃいます。このスウェーデンの家庭の味を体験されていきますね。このバザールが大きいイベントのひとつですね。

-: スウェーデンの家庭の味やお馴染みの食べ物と言った食文化を紹介するということは、日本人にとっても興味があることのように思います。SCF でもこれまでにスウェーデンの食文化を紹介するワークショップなどを開いてきましたが、毎回多くの方に興味を持っていただき、参加していただきました。

F: ワークショップと言えば、SWEA でも日本の方に日本料理や日本で人気のある料理を教えてもらうことを定期的な料理教室の中で行っていますね。どれも素晴らしい料理ばかりです。

-: 料理教室ですか、例えばどのような料理を…？

F: 日によって異なりますが…日本人になじみの深い餃子や、お寿司なんかもありますね。

-: すごいですね！もしご興味がおありのようでしたら、私の郷里で作られている料理なんかもぜひ一度お試しに

なってみてください。基本的に肉や動物由来の成分を使わないので、ベジタリアンの方でも食べられると好評でした。

F: それは良いですね！

F: そして忘れてはいけない大切な活動がありまして、10年前に東北で起きた大きな地震と津波で被害に遭った方々に対する支援を行っています。SWEA JAPAN では東北で被災された方々のために使わない家具を提供したり、IKEA や SWEA JAPAN のメンバーと共に家具や道具、おもちゃを被災地に送る活動や、義援金を募る活動もおこなったりしました。最近までこの活動は続けていました。あの地震から10年が経ちましたが、この活動に対する感謝のお返事をいただいていると聞いていますし、SWEA JAPAN のメンバーは実際に東北の被災地を訪れ、被災された方々とお会いしています。この活動も SWEA JAPAN の重要な活動の一つですね。



2013年に被災地支援で訪問した際に。

ー: 何と… SWEA JAPAN の皆さんをはじめご支援してくださったスウェーデンの皆さんには、同じ日本人として心から感謝いたします。私の友人のスウェーデン人も、地震が起こって原発事故が起きた直後から、日本のために何かできないかとアクションを起こしてくれた者がいました。スウェーデン人のそういう互助の意識の高さには学ぶところが多いですね。

F: ほかにもたくさんの活動をしています、そのすべてをご紹介できれば良いのですが…ホームページなどでもご紹介しています。ご興味ありましたらぜひご覧ください。

日本とスウェーデンとの違いから

ー: ちょっと路線が変わって社会的な視点の質問になりますが、昨今のニュースでも日本は女性の社会進出が他の国と比べて遅れていると言われています。日本における女性の社会進出について、アドバイスやご意見などいただけですか？

F: これについてはいろんな意見がありますので、一概にこうだと言うことは難しいですね。

スウェーデンの女性も日本に来て、スウェーデンとは色々な面で違うということを体験していますが、そのシチュエーションは様々ですし、日本の社会にこうして欲

しい、こうあるべき、ということは難しいことですが…そうですね、ひとつ私たちの身近な話題として驚いたことを挙げるとすると、スウェーデンの女性が子供を連れて日本に来た時に、特に東京では初等教育の場…特に幼稚園や保育園を見つけるということがとても難しい、ということが挙げられるかと思います。東京はとても大きな都市なのですが…。

スウェーデンではこの種の問題に対しては丁寧な対応がなされているので、良い場所を見つけて、そこに入れるまでに一年以上かかるという日本の状況には驚くばかりです。これは政治的な問題ですが、社会的には優先度の高いことであるように思います。家で子どもと共に過ごすことのできる母親にとっては、子どもを育てる、子どもと関係を築けると、ある意味ではポジティブに考えることができるかも知れませんが。

もう一つ、スウェーデンと日本、それぞれの国で政治に関わる人達を見ていると、日本はとても男性が多いことに驚きを感じています。スウェーデンでは早い段階から女性の政治参加が行われ、90年代には閣僚の男女比も半々にはなっていなくてもそれに近い状態になっています。そう言った所からすると、日本の政治家や閣僚、国会議員のメンバーを見ていると、ほとんど男性で占められているということは驚きです。

ー: 全くですね、日本ではいろんな面で未だに男性の視点で物事がとらえられているという部分があるように思います。女性の政治参加も少しずつ増えてきてはいますが…まだまだ不十分であることは否めないです。もっともっと改善しなければなりませんね。

それに都市部…先ほどおっしゃったように幼稚園や保育園などが不足しているということは事実ですし、反対に子育て世代の夫婦が十分に子供と過ごす時間を取りきれないという実態もあります。そういうことも含めて、日本は北欧の国々に学ぶべきことは多いと思っています。

F:もちろん、スウェーデンも他国から学ぶべきところは数多くあります。議会の代表者たちの男女比率はおよそ1:1になっていますが、スウェーデンの周りの国々のように、女性が首相になった…ということはこれまでにありません。そういう観点から見ると、男性議員が多い中であっても小池東京都知事のように女性議員が活躍されている日本の現状は興味深いものがあります。

今後の活動

ー:SWEA JAPAN の今後の活動予定、何かプランなどはありますか？

F: コロナウイルスのこともあるので、今すぐできるものというのは難しいのですが、現状ではオンラインでの取り組みを増やしています。直接会ってできることを増やしていくたいですし、そうあってほしいのですが…。ただ、今回のインタビューのようにバーチャルなつながりというものは、人とのつながり、特に遠く離れた場所にいる人とのつながりをより簡単にできるようにした面もある

と思っています。中国や韓国、SWEAなど、日本と時差が殆どない国を中心に、東京にいながら、より大きなエリアでバーチャルミーティングをし、つながることができるということは、まず大きなポイントですね。

それから、さきほどお話をした東北での被災者支援の活動をしていきたいと思っていて、色々な面でその可能性を探っています。今回のこの記事も多くの方に読んでいただきて、そのきっかけになったら良いですね。



また、交流という点ではスウェーデンと他の国、特にオーストラリアとの交流イベントも考えています。例えば、スウェーデンでは南部スマーランドは伝統的にガラス工芸が有名でして、そのガラス工芸作家と、オーストラリアの陶芸家との交流イベントを開催したり、またスポーツの分野では、毎年イエーテボリで開催しているサッカーのユース大会「Gothia Cup」には、各国からチームが参加して競い合うのですが、その大会にオーストラ

リアのガールズチームが参加できるように、SWEA Australia のグループがメインになって支援を行っています。スウェーデンでもオーストラリアでも若い世代を中心にはサッカーは人気がありますし、国を跨いでの活躍というものにはとても大きな意味がありますからね。

このように、これまで色々な活動を行い、またこれからも行っていきたいと思っています。

ー:SWEA の活動は本当に多岐に渡るのですね。SCF でも今回のインタビューのように Zoom を使ってオンラインで行う活動を数多く企画しています。ぜひ SWEA の皆さんによるワークショップやセミナーなどを開催できたらと思いますので、その際はよろしくお願ひいたします！ちょうど SCF でも、スウェーデンで女性が参政権を獲得して 100 年を迎えたことを記念する展示企画を予定しておりますので、その際にも SWEA と何かご一緒できたらと思います。

さいごに

ー：最後に読者…主に日本の方ですが…に向けてメッセージをお願いします。

F：今回このような機会を得ることができ、非常に嬉しく思います。今回のインタビュー記事がきっかけになって、SWEA のことをもっと多くの日本人の方に知ってもらえた幸いです。今はコロナのこともあり移動もままならない中ですが、この事態が収まった時には、ぜひ北海道にある「スウェーデンの街並み」を見に行きたいと思います。

ー：ありがとうございました！



SCF EVENT INFORMATION

Ja, må den leva!
Affischutställning
Under åren 2018–2022 firar Sveriges riksdag demokratins genombrott. Vi vill inspirera till samtal om demokratin och dess framtid. Du är varmt välkommen att vara med.

Besök friademokratin riksdagen se för att läsa mer om våra demokratihjältar och historierna bakom den viktiga kampanjen för demokrati i Sverige. Där kan du även förstå dig, utforska demokratins tidslinje och uppleva digitala tittskåp med dramatiseringar från demokratins historia. På webbplatsen finns även information om aktiviteter och utställningar runt om i landet.

#firademokratin | firademokratin.riksdagen.se

**お誕生日
おめでとう！**
スウェーデン・女性参政権100年
ポスター展

成年男女の平等な普通選挙権による民主的議会選挙が、スウェーデンで初めて行われてから100年。スウェーデン国会は、1921年の黒幕的な選挙権改革を記念して、さまざまな活動を行っています。スウェーデンにおける民主主義の発明けまでの道のりを紹介するポスター展をご紹介します。ぜひご覧ください。

2021年6月5日(土)より 展示中
スウェーデン交流センター センターホール
(10:00 - 16:30 火曜日休館／入場無料)

〒061-3777 北海道札幌市中央区南24条西25
TEL 011-26-2340 / e-mail@swedish-center.or.jp

**Ja, må den leva!
お誕生日おめでとう！**
スウェーデン・女性参政権100年
ポスター展

2021年6月5日(土)より
スウェーデン交流センター
センターホールにて展示中

令和2年度事業報告 / 令和3年度事業計画

令和2年度事業報告

令和2年度の評議員会・理事会は、新型コロナウイルスの感染拡大による政府の緊急事態宣言と感染拡大防止に向けた活動の自粛要請を受け、書面による決議をおこないました。

【I. 評議員会・理事会の開催状況】

- ① 評議員会
日時：令和2年6月15日（月）
内容：令和元年度事業報告、令和2年度事業計画
収支決算報告、監事補欠選任、評議員選任
- ② 理事会
1. 第1回理事会
日時：令和2年5月25日（月）
内容：令和元年度事業報告、令和2年度事業計画
顧問移植について
2. 第2回理事会
日時：令和2年11月16日（月）
内容：令和2年度上期事業報告、収支報告

【II. 事業状況】

1. 交流事業

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた北海道からの要請を受け、センターホールを含むSCFの全ての施設を臨時休館にするなどの対応をし、集客イベントやアーティスト・イン・レジデンスについても中止とするなどの対応を余儀なくされました。動画配信やオンライン会議アプリケーションを用いたオンラインでの取り組みをおこないました。

開催事業（主なものを抜粋）

- 1) 展示会 SCF ダーラヘストコレクション展

令和3年度事業計画

I. 基本方針

令和3年度（2021年度）の事業計画については、定款に基づき、わが国とスウェーデンとの経済的・文化的交流を積極的に推進し、両国の友好親善を促進することを目的に事業を計画実施いたします。

事業につきましては、従来通り次の4つの事業を柱に事業を計画実施いたしますが、新型コロナウイルス感染症蔓延が収まらない中、人を集めておこなうイベントについては、今年度も難しいものと考えます。各事業の計画において密になる恐れのあるイベント等につきましては、必要に応じて内容を変更・修正して実施します。特に、昨年度から取り組みを進めているインターネット上のイベント（オンライン開催）企画については、さまざまな内容をシリーズとして企画し、自宅に居ながらスウェーデンのことを知り、また、学べる機会をさらに充実させるような企画を積極的に取り入れて事業を企画実施いたします。

II. 事業内容

交流事業：スウェーデンとの相互の産業・文化交流を目的とする派遣及び招聘並びに講演会、セミナー、講習会、展示会の開催事業。

- スウェーデンの地方紹介シリーズ⑨「ウメオ市」等
- 2) イベント SCF ユールフェア（一部内容を変更して開催）
- 3) セミナー スウェーデン語会話講座（動画配信）

2. 広報事業

- 1) 広報誌「ビヨルク」の発行（年4回 各1,500部）
- 2) スウェーデン交流センターのホームページ・フェイスブックの随時更新
- 3) マスメディア・取材対応
- 4) 資料の整備

3. 工房事業

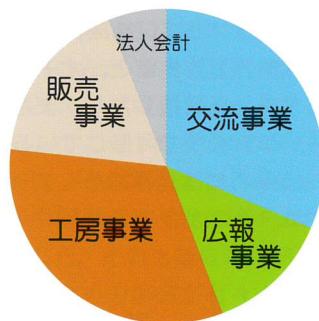
- 1) ガラス作品展
- 2) 体験学習

4. 販売事業

- 1) ガラス工房、木工房の作品の販売
- 2) 輸入雑貨の販売

【令和2年度の収支決算】

総収入は50,745千円、総支出は73,313千円。支出のうち継続事業は68,905千円、管理費は4,408千円となっており、経常増減額は-22,568千円となりました。事業費明細は下記グラフおよび表をご参照ください。



令和2年度事業費明細

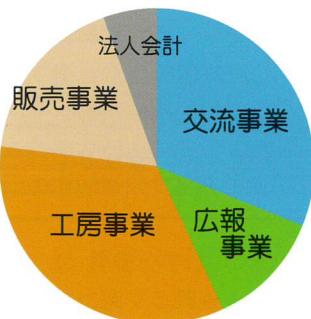
事業	金額 (千円)
交流事業	23,127 千円
広報事業	9,308 千円
工房事業	23,873 千円
販売事業	12,597 千円
法人会計	4,408 千円

広報事業：スウェーデンとの相互の産業・文化交流に関する情報の公開及び図書その他刊行物の発行と、インターネットでの情報発信の事業。

工房事業：スウェーデンのハンドクラフト技術の普及、日瑞作家同士の交流を目的としたガラス工芸工房及び木材工芸工房の運営。

販売事業：スウェーデンとの相互の産業・文化交流のための工芸品、民芸品及びスウェーデンデザイン雑貨等の輸入販売並びに工房の作品販売。

【令和3年度の収支予算計画】



2021年度事業費明細

事業	金額 (千円)
交流事業	22,769 千円
広報事業	8,628 千円
工房事業	24,723 千円
販売事業	12,737 千円
法人会計	3,943 千円

新しいSCF職員をご紹介します！

東京とストックホルム出身のビクトル太平さんが
5月よりSCF職員として勤務しています。
みなさん、どうぞよろしくお願ひいたします！

たいへい

山口ビクトル太平さん

出身：東京とストックホルム出身



好きなもの： 魚釣り、自転車、陶芸、芸術

日本で一番好きな場所：

日本で一番好きな場所は、九州に住んでいるおばあちゃんの近所にある小さな温泉、「コスモス温泉」です。ものすごく熱いお湯で、最初は入れなかったのですが、徐々に入れるようになりました。

日本の好きなところ：

日本の気候や自然が好きです。中学校まで東京で育ったので、やはり湿気がある日本の空気や夏のセミの鳴き声を聞いたりすると「懐かしいな～」って思います。あとは、日本の陶芸もすごい好きです。萩焼や京焼、ぜひ機会があれば北海道の陶芸も色々見て回りたいです。

スウェーデン交流センターでしてみたいこと：

スウェーデンと日本、2つの国で育った経験があるので、その体験があるからこそ見えてくる日本とスウェーデンの文化の違いなどを生かして、日本の方にスウェーデンの知らなかつたことや、さらにスウェーデンに興味を持ってもらえるように頑張りたいと思います。

日本でしてみたいこと：

コロナが落ち着いたら、温泉に行ったり、札幌の街を歩き回って、美味しいラーメン、ジンギスカンやウニ、北海道ならではの美味しい物をたくさん食べたいです。北海道にある、「白金青い池」や「しろひげの滝」もぜひ見てみたいですね。



たまたま釣れた大物！住んでいた島の海岸から釣りました。可愛うなので、この後逃がしてあげました。



友達のカミッラから、ろくろのアドバイス！



ストックホルムの友達がヨーテボリに遊びに来た時に撮った写真です。ヨーテボリの Delsjön (デール湖) の周りを散歩をしました。



これは冬場、住んでいた Björkö (ブヨルクー) の近くの島 Rörö (ロールオー) から撮った写真です。午後15時あたりです。

Björk これまでのあゆみ ②

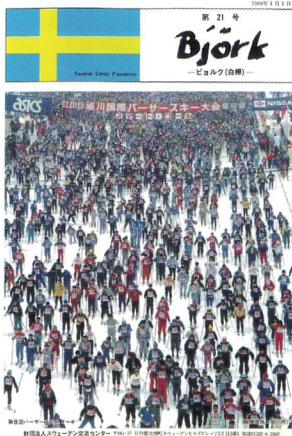
この広報誌「ビヨルク」は、これまで多くの方のご協力のもとに作られ、SCF の活動を紹介するだけでなく、スウェーデンの文化や経済を紹介してまいりました。

前回第 150 号発行に際し、150 号から数回に分けて第 1 号からこれまでのビヨルクの表紙をご紹介したいと思います。SCF を設立時からご存知の方も、新たにこの広報誌をご覧になった方も、当時の様子に想いを馳せていただけたらと思います。第 2 回目の今回は、第 21 号から第 52 号までをご紹介します。



第 21 号

1989 年 1 月 1 日発行



第 22 号

1989 年 4 月 1 日発行



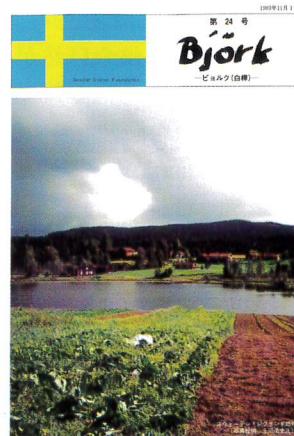
第 23 号

1989 年 8 月 20 日発行



第 24 号

1989 年 11 月 1 日発行



第 25 号

1990 年 1 月 1 日発行



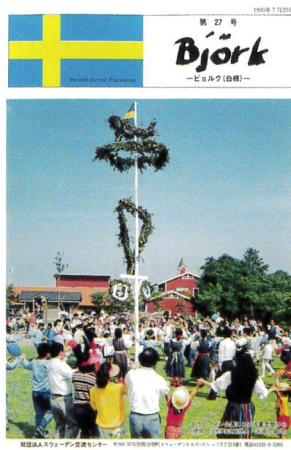
第 26 号

1990 年 4 月 10 日発行



第 27 号

1990 年 7 月 20 日発行



第 28 号

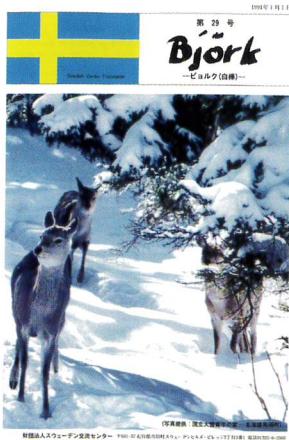
1990 年 10 月 10 日発行



今は参加していないのですが、さっぽろ雪まつりの「国際雪像コンクール」には、毎年スウェーデンから代表チームが参加していました。毎回非常にクオリティの高い雪像を作り、優勝することもありました。

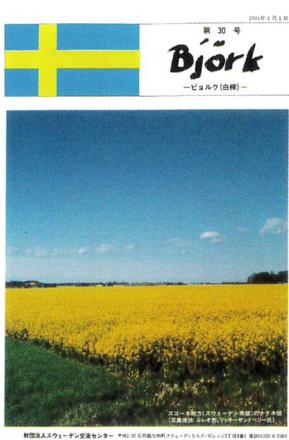
第 29 号

1991年1月1日発行



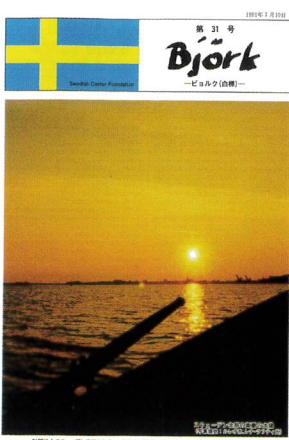
第 30 号

1991年4月1日発行



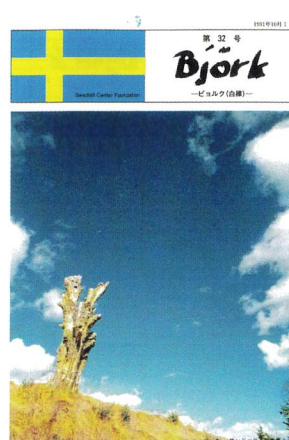
第 31 号

1991年7月10日発行



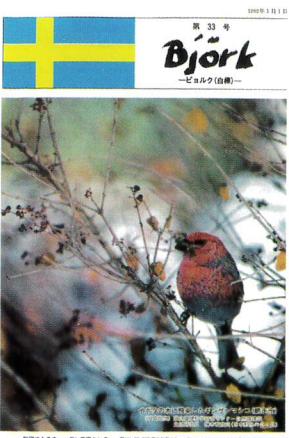
第 32 号

1991年10月1日発行



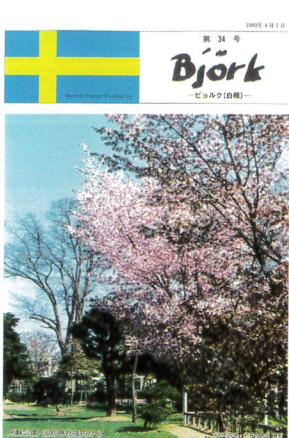
第 33 号

1992年1月1日発行



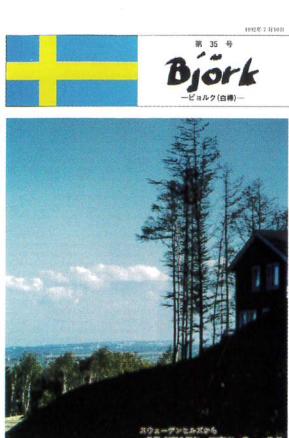
第 34 号

1992年4月1日発行



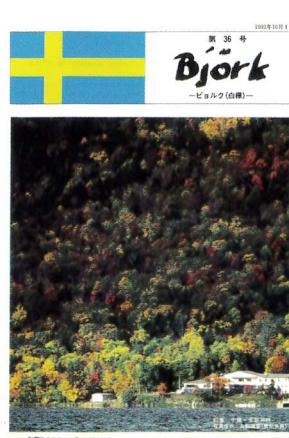
第 35 号

1992年7月10日発行



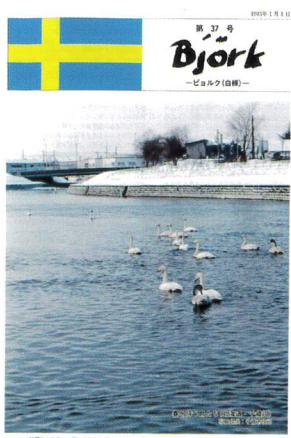
第 36 号

1992年10月1日発行



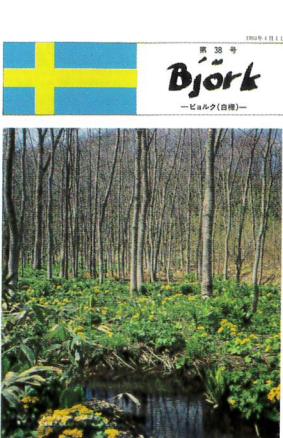
第 37 号

1993年1月1日発行



第 38 号

1993年4月1日発行



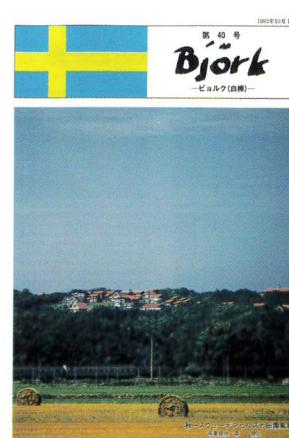
第 39 号

1993年8月1日発行



第 40 号

1993年10月1日発行



このビヨルクの表紙写真は、夏至祭やスウェーデンの写真以外にも、当時の当別町内の様子が表紙を飾ることもありました。当時の当別町に想いを馳せるというのも良いですね。

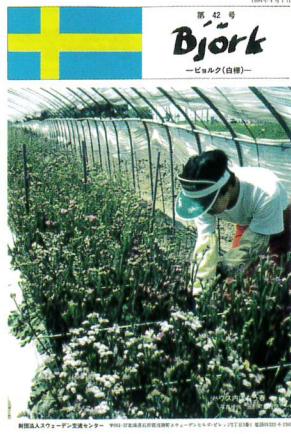
第41号

1994年1月1日発行



第42号

1994年4月1日発行



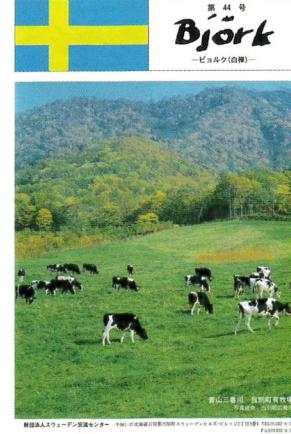
第43号

1994年7月1日発行



第44号

1994年10月1日発行



第45号

1995年1月1日発行



第46号

1995年4月1日発行



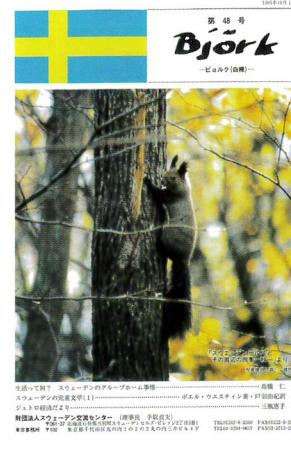
第47号

1995年7月1日発行



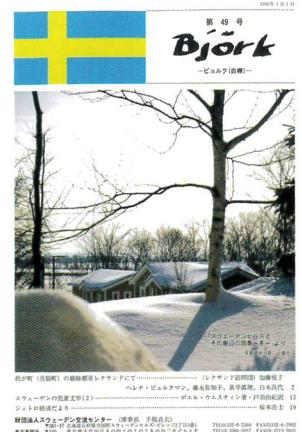
第48号

1995年10月1日発行



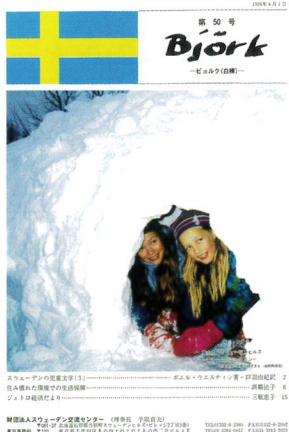
第49号

1996年1月1日発行



第50号

1996年4月1日発行



第51号

1996年7月20日発行



第52号

1996年9月20日発行



第45号から、現行と同じA4サイズでの印刷になりました（それまではB5サイズで印刷されていました）。また、今もSCFと縁の深い方々によるご寄稿も数多くいただいていました。

(次号に続く)

ウルフ・ヤンソンさんの作品

「At Ease」

がスウェーデンの国立美術館 に収蔵されました。

当財団事業「SCF アーティスト・イン・レジデンス 2017」招聘作家で、ウッドターニング（木工旋盤）作家のウルフ・ヤンソンさんの木工作品「At Ease」が、このたびスウェーデンの国立美術館（ストックホルム）に収蔵されました。

この作品は、2018 年に SCF 設立 35 周年を記念して開催した工芸展「35år一日瑞ガラス・木工作品展」のために制作された作品で、SCF センターホールをはじめ、札幌や東京のスウェーデン大使館でも展示されていました。

今回はその収蔵を記念し、ウルフさんからメッセージをいただきました。



Inspiration and friendship

In the beginning of 2020, I received a phone call from The National Museum of Fine Arts (Nationalmuseum) in Stockholm. They wanted to buy a bowl from me! This was a wonderful opportunity and at the same time an almost surrealistic surprise. A number of interesting items for the purchase were discussed and it ended with the "At Ease". This was a very happy moment in my life and besides Japanese – Swedish friendship once again was present.

With the Japanese way of handing over something in mind, I decided to make a unique box for the delivery procedure that was set to take place in Stockholm on the 11th of May. The major part of the box is made from spruce. In addition, I choose some scrap pieces of 2000-year-old bog oak, (dated by the museum in Växjö), and a small piece of oak that came from a tree my grandfather took down about 100 years ago. He was a carpenter and bought the tree to make all furniture to his house in the beginning of the nineteen hundred. I have been told that it was a huge tree, probably about 1000-year-old. I still use some of his tools and every day I sharpen tools on the honing stone I inherited after him. The box I filled with fine shavings to resemble a bird's nest.

It was a pleasure to make the delivery and the box made a big impact. At the delivery at the museum, it was stated that the box



インスピレーション、そして友好

その電話を受けたのは 2020 年始めのこと。

ストックホルムの国立美術館が、私の作品を買いたいと言うのです。「何と素晴らしいことか！」と、「ありえない！」という二つの相反する驚きを感じたことを覚えています。作品買い付けまでに美術館とは何度かお話をさせてもらい、最終的に今回の「At Ease」に決まりました。この作品に決まったことは、私の人生の中でもとても幸せな瞬間であり、日本とスウェーデンの友好が再び脚光を浴びるという点でも、非常に意義深いものであると思っています。

5月 11 日にストックホルムで行われる作品の引き渡しの際には、日本の流儀に倣って箱に入れて作品を作ろうと決めていました。それもただの箱ではない、ユニークな箱に、です。マツ（トウヒ）を主に使い、一部に樹齢 2000 年のナラの埋もれ木（ヴェクショーの博物館で鑑定）と、100 年ほど前に私の祖父が切り倒したナラの木の木材をあしらいました。私の祖父は大工をしており、20 世紀始めに家を建てた際に、家の家具を作るためにこの木を使つたと言っていました。その木はとても大きなもので、樹齢もおそらく 1000 年ぐらいはあるだろうと言っていたことを覚えています。その祖父から受け継いだ砥石を使い、私は今でも彼の道具を磨き、日々の作品制作に使つているのです。そしてできたこの箱には、鳥の巣を模して木の削りかすを敷き詰めていくのです。

美術館に作品を届けることができたのは光栄なことで、今回のために制作した箱は、私にも美術館の人たちにも大きなインパクトを与えるました。彼らはこの箱にも感銘を受け、今回の作品の一部とすべき、そう言ってくれたのです。

should be considered as a part of the artifact.



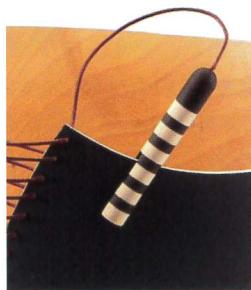
At the end of last year, the bowl was chosen to be presented in the 2020 edition of the book *Masters of Contemporary Wood Art* in the U.S. There is no connection between what took place in Stockholm and Los Angeles – it was just a happy coincidence.

This is how it started...

The 16th of March 2017 Inagaki-san came to visit my Woodshop in Alvesta in the south of Sweden. The meeting ended with urging me to apply for the AIR scholarship at SCF I Tobetsu. Less than a month later the application had resulted in preparations and arrangements for my AIR period. Friendship, hard work, presentations at different universities and a solo exhibition made the time run fast. Simultaneously preparations to celebrate the 35 years of the SCF Sweden Hills took place in the office. (In a larger scope there were preparations going on to celebrate 150 years of friendship between Japan and Sweden during 2018).

The second invitation to go to Japan to participate in the exhibition “35ÅR” in late 2018 arrived soon after coming back to Sweden. The invitation presented an interesting and fantastic reunion program for all the twenty-three AIR-participants over the years Sweden Hills had been in business. We were invited bring two artifacts each for the exhibition that took place at the Sapporo Art Park. Later on, the exhibition was moved and set up at the Swedish Embassy in Tokyo. One of my pieces was the “At Ease”.

The bowl is turned from Birch (Swedish: BJÖRK!). At the end of the leather string there is a striped addition made from white Euonymus and black ebony. The Euonymus pieces have a fantastic history that is a friendship tie between Japan and Sweden.



During the nineteen hundred three expeditions of botanic scientists went from Sweden to visit their counterparts in Japan. Among other things they brought plants and seeds back to Sweden and planted them in the Botanical Garden in Gothenburg. As the trees got old some pieces were cut down and stored for future events. In 2014 there was a Japan theme in the Botanical Garden in Gothenburg. I was invited make artifacts to “show the soul” in a number of Japanese trees.

昨年末のこと、この「At Ease」は、アメリカの書籍「*Masters of Contemporary Wood Art*」2020年版の掲載作品の一つとして選ばされました。ストックホルムとロサンゼルスをこのように結びつけるものは何もなかったにも関わらず、このような栄誉にも恵まれたことは、大変幸せな偶然だったと言えるかも知れません。



“それ”はこうして始まった…

2017年3月にSCF職員の稲垣さんがスウェーデン南部にあるアルヴェスターの私の工房に足を運んでくださり、そのことがSCFで行っているアーティスト・イン・レジデンスのプログラムへの申込につながりました。ほどなくしてこのプログラムで日本に行く機会を得た私にとっては、その準備と制作活動、大学でのプレゼンテーションや個展と言った仕事をこなす日々が足早に過ぎていきました。それとほぼ時を同じくして、SCF設立35周年を祝うための準備が着々と進められていたのです（日本とスウェーデンの交流という視点では、この2018年という年は日本とスウェーデンが外交関係を結び、公に友好関係を結んで150年という記念すべき年でもあったのです）。

1回目の日本滞在を終えて間もなく、SCFの35周年記念展示会「35år」への招待状が届きました。作品の展示を行なうだけでなく、SCFがこれまでに招いた木工・ガラス工芸の歴代スウェーデン人アーティスト達との再会という素晴らしい内容が含まれていて、この展示会に向けて制作した2つの作品と共に札幌芸術の森で開催された展示会に招待されたのです。この展示会は後に東京のスウェーデン大使館でも開催されたのですが、この展示会のために作った作品のうちの一つが、今回収蔵された「At Ease」なのです。

白樺（スウェーデン語で“Björk”と言います）を削って作ったこの器には、ふちに革製の紐のついた、ニシキギと黒檀で縞模様にあしらったクリップがついています。このクリップとそのデザインには、日本とスウェーデンの友好を示す素敵なエピソードが込められています。

20世紀の半ば、スウェーデンから植物学者達が植物の生態に関する調査を行うため、何度も日本を訪れました。

Thirty-eight trunks of wood were transported to my woodshop to serve as material for the exhibition. The Euonymus was among them. It was a fantastic wood for woodturning and I used some small pieces for the bowl "At Ease". The exhibition at the Botanical Garden was opened by the Japanese Ambassador in Sweden at the time.



狼 梁尊
Ulf Jansson



This was the artifact I made to show the soul in the Euonymus. The delicate inside found in a coarse piece of wood. No sanding just cut surfaces to lift out the soul.

上の作品は、私がニシキギの魂を表現する作品として作りました。木の表面が持つ“粗さ”の中にも併せ持つ繊細さを表すとともに、サンドペーパーでの磨きをかけずに、表面を削ることのみで魂をすくい上げる様子を表現しています。

それらは時と共に大きく成長し、そのうちいくつかは将来のための挿し木として売り出されました。時は流れ 2014 年のこと、イエーテボリの植物園には日本から来たことを示す「桜」の木々が数多く花を咲かせていました。その植物園で、当時の駐スウェーデン日本大使が開催した展覧会に招待された私は、その桜の木々の下、“魂を表現する”作品を創り上げました。ここでの展示の素材とするために自分の工房から 38 本の木の幹を持ち出したのですが、“At Ease” の一部として使っているこのニシキギはこの時に使ったものでもあるのです。

狼 梁尊
ウルフ・ヤンソン



Prof. Lindqvist, prof. Tokuhashi och dennes medarbetare.
Yamabe, Sorechi;
Kamikawa, prof. Nakamura,
aug. 1955.

発見力
つながりをみつける力

[業務内容]
美術、書道作品集・記念誌・町史・チラシ・ハガキ・
パンフレット・自費出版・インターネット事業・
各種イベント 他

NAKANISHI PRINTING CO.,LTD.

〒007-0823 札幌市東区東雁来3条1丁目1番34号
TEL (011)781-7501 FAX (011)781-7516
<http://www.nakanishi-printing.co.jp/>

シリーズ
第15回

POLITIK I SVERIGE スウェーデンの「政治」

5月に SCF さんのオンラインイベントでガムラスタンを巡るバーチャルツアーやらせてもらいました。その時にスウェーデンの国会議事堂「リクスダーベン」を紹介させてもらったのですが、日本にはスウェーデンの政治に興味を持っている人も沢山いると思いますので、今回は政治について。

細かくお話しすると2ページでは収まらないので、スウェーデンの国家議会、政府と政党を軽く紹介したいと思います！



最近熱くなったのは夏だから…というだけではありません。

来年2022年にはスウェーデンの総選挙が行われます。現在は社会民主党と緑の党の左派少数連立政権で、首相はステファン・ロヴェーン（社会民主党党首）です。

最近のスウェーデンの政治についてもっと知りたい人、下記のスウェーデン語の簡単ニュースサイトがおすすめです。

8sidor.se <https://8sidor.se/>

“nyheter på lätt svenska(news in easy swedish)” 簡単なスウェーデン語で書かれているニュースサイトです。

Klartext <https://sverigesradio.se/klartext>

同じく簡単なスウェーデン語で書かれているニュースサイト。ラジオチャンネルでも聴くことができます。

Radio Sweden på lätt svenska

<https://sverigesradio.se/radioswedenpalattsvenska>

スウェーデンのラジオ局による簡単なスウェーデン語でのニュースチャンネル。ネットからも聴けます。

スウェーデンに興味がありましたら、スウェーデン語のGoogle翻訳は100パーセント完璧じゃなくても参考になることが多いので、是非是非読んでみてください～^ ^ ~

Riksdagen スウェーデンの国会

日本の国会は二院制で衆議院議員の定数は465議席で参議院議員の定数は248議席でトータル713議席ですね。

対してスウェーデンの国会は日本と違い、一院制^(※1)で議員定数が349議席になっています。スウェーデンの国会はリクスダーベン Riksdagen といって、日本で言う国会議事堂 Riksdagshuset はガムラスタンにあります。ここでは国の予算や制度に関することや、EUとのやり取りなどの外交、そして国民投票に関する議論などをしています。

スウェーデンでは選挙に関わる選挙権に関する規定は次のように決められています。

※1 スウェーデンは1971年より二院制から一院制に移行。

国会議員選挙の選挙権

- ①選挙日までに18歳であること。
- ②スウェーデンの国籍を有していること。
- ③スウェーデンで住民登録をされていること。または過去に住民登録がされていたこと。^(※2)

国会議員の被選挙権

- ①国会議員選挙の選挙権を持っていること。
- ②政党により候補者として指名されていること。
- ③候補者として指名された場合は、それに同意していること。^(※3)

Allmänt val 総選挙

スウェーデンでは4年に一回総選挙があります。スウェーデン議会に議席を割り当てられるには、政党は選挙で少なくとも4パーセントの票を獲得する必要があります（例外規定もありますが、その規定が適用されたことはないです）。

Politiskt parti スウェーデンの政党

現在のスウェーデンの政府は、2019年から先ほど説明した通り社会民主党と緑の党という二つの政党で政権与党を担っている左派少数連立政権です。

首相はステファン・ロヴェーン（社会民主党党首）。現在スウェーデンの国会議会には8政党が入っています。

与党

- ①社会民主党 Socialdemokratiska
(議員数 100)
- ②緑の党 Miljöpartiet de Gröna
(議員数 16)

野党

- ①穏健党 Moderata samlingspartiet
(議員数 70)
- ②スウェーデン民主党 Sverigedemokraterna (議員数 62)
- ③中央党 Centerpartiet (議員数 31)
- ④左翼党 Vänsterpartiet (議員数 27)
- ⑤自由党 Liberalerna (議員数 19)
- ⑥キリスト教民主党 Kristdemokraterna (議員数 22)

※2021年6月時点での議席数

※これ以外にも政党はいくつありますが、いずれも総選挙で4パーセントの得票率を得られなかつたため、議席はありません。

※2スウェーデン選挙庁より
<https://www.val.se/att-rosta/vem-har-rostratt/rostratt-och-rostlangd.html>

※3リクスダーベン HPより
<https://www.riksdagen.se/sv/Sa-funkar-riksdagen/Demokrati/Val-till-riksdagen/>

スウェーデンの政党でちょっと珍しい点があって、今説明した通り国会で議席を持つ政党は全部で8つあるのですが、その党首や代表は全部で9人です。

というのは、緑の党は党首ではなく男性一人と女性一人、1人ずつをスポーツパーソン…代表者に近い表現ですね…にしているためです。これはちょっと珍しいかもしれませんね。

今はコロナのため、現在は国会議事堂の案内が中止となっていますが、デジタルな案内があって、面白いです。スウェーデン語なんですが見てみると面白いかもしれません。

リクスダーベン・デジタルガイド
<https://www.riksdagen.se/sv/upplev/>

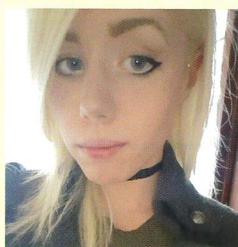
Kvinlig rösträtt 女性の参政権

女性の被選挙権については、北欧諸国はフィンランドの1906年、ノルウェーの1913年、デンマークの1915年に導入されましたが、スウェーデンはその3カ国に遅れること1919年に女性の選挙権に関する法案が通り、1921年に国政選挙における選挙権と被選挙権を獲得し、初めての総選挙がおこなわれました（※4）。

その一方で、意外に思われるかもしれませんのがスウェーデンは民主主義が導入されてから100年経った今でも女性の首相は誕生していません（※5）。初めて女性の首相が出る時は、どんな方でしょうかね？



Author



Sofia Malm

ソフィア・マルム

2010年高校を卒業後、日本に留学。カイ日本語学校で学び、帰国後日本語能力試験1級を取得。

ダーラナ大→ウプサラ大→ストックホルム大を渡り歩き日本語／日本学を修了。途中2015年に京都大学に1年の留学を経て、2017年6月ストックホルム大学日本学科を卒業。いわゆる大学移民。好きなものはおにぎり、赤飯そしてマグロ丼。

スウェーデンの生活についてインスタグラムとツイッターもやっていますので、スウェーデンに興味があったら、是非見てみてください。

インスタグラム：instagram.com/wagasueden

ツイッター：twitter.com/wagasueden

ブログ：<https://wagasueden.hatenablog.jp/>

記事やブログ、インスタへの
ご意見ご感想お待ちしています！

※4スウェーデン国立公文書館より
<https://riksarkivet.se/om-kvinnlig-rostratt-i-sverige>

※5スウェーデン統計庁より
<https://www.scb.se/hitta-statistik/artiklar/2021/hundra-ar-med-kvinnlig-rostratt/>



気分は北欧生活。

スウェーデンヒルズ Since 1984
Sweden Hills

札幌郊外の丘に北欧の街並。
スウェーデンヒルズ。

大都市近郊でありながら自然に囲まれた美しい街並。
「人が人らしく、自然と調和して豊かに暮らす」を理想に、
スウェーデンの住環境を再現した住宅地として誕生以来30年。
美しい風景の中で約300家族のくらしが息づいています。

0120-242-522 [スウェーデンヒルズ](#)

スウェーデンヒルズ ウエスト地区 レクサンド公園

賛助会員入会のお願い

一般財団法人スウェーデン交流センターは、ガラス作品や木工作品の制作などを通じて多方面での交流を行うとともに、夏至祭、ルシア祭、各種展覧会など、年間を通して様々な催しを行い、スウェーデン文化の紹介を積極的に行なっています。

これらの催しは、当センターの趣旨をご賛同くださる皆様が賛助会員としてその運営基盤をささえてくださっており、毎回の催し等は、広報誌「ピヨルク」にも掲載し、賛助会員の皆様には、年4回ご自宅まで郵送、いち早く情報提供しています。ぜひ賛助会員にご入会下さいよう、お願ひいたします。

賛助個人会員 年会費 一口 5,000円
賛助法人会員 年会費 一口 20,000円

あとがき

●去年に続き2年連続で夏至祭が中止になるなど、新型コロナウイルスの影響は留まることを知らないかのようですが、今春から日本でもワクチンの接種が始まり、少しずつではあるものの明るい話題が聞こえるようになってきました。来年には全ての活動が元通りに開催できるようになってほしいですね。

●5月からSCFの新しいスウェーデン人スタッフとして、山口ピクトル太平さんが加わりました。SNSでの情報発信やオンラインでのスウェーデン語講座など、さっそく精力的に活動をしています。スウェーデン語を勉強したい方やスウェーデンのことを知りたい方など、ぜひSCFにお越しの際は話しかけてみてくださいね！